

(様式)

普及項目	資源管理
漁業種類等	採貝業
対象魚類	アサリ
対象海域	熊本有明海

新たな被覆網によるアサリ保護手法(荒尾・牛水地区)

県北広域本部水産課 永田 大生

【背景・目的・目標 (指標)】

アサリの保護手法の一つである被覆網について、その有効性を広島県などが報告しているが、管内では、波浪の影響による網の剥がれや管理負担などの理由から、普及が進んでいない。今年度、管内の横島地区で小型の被覆網を用いたアサリの保護手法の有効性が確認されたため、管内の2地区以上に、その手法を普及することを目標として、現地指導を行った。

【普及の内容・特徴】

(1) 被覆網の試験設置

令和3年(2021年)10月18日、令和4年(2022年)1月20日の2回、荒尾及び牛水漁場(令和2年(2020年)施工の県営覆砂漁場)において、被覆網の設置試験を実施。アサリ稚貝の発生が確認された漁場に、目合い9mm角目、大きさ5m×4mのラッセル網を設置した。また、被覆網への波浪による影響を防ぐため、網の縁辺部に長さ50cmのプラスチック製杭を約50cm間隔で打ち込んだ。加えて、網の縁辺部に溝を掘り、土嚢の埋込の有無による効果を確認した(図3、図4)。

(2) 生息状況調査

令和3年(2021年)10月から令和4年(2022年)3月までの間、月1~2回、計9回、生息状況調査を実施。被覆網下とそれ以外の場所で、10cm方形枠で各4カ所枠取りし、現場にて2mm角目の篩で篩い、篩に残ったアサリを計数して、推定生息密度を算出した。その結果、荒尾地区では、土嚢を埋め込まない被覆網の生息密度が高く、設置5ヶ月後も網は剥がれなかった。牛水地区でも、同様の効果を確認した。

【成果・活用】

被覆網下のアサリの生残率は、荒尾地区では、土嚢埋込有が143.1%、土嚢埋込無が253.3%であり、対照区は28.9%となった。牛水地区では、土嚢埋込有が228.3%、縁辺部埋込無区が194.3%、対照区は84.9%となり、両地区とも、被覆網の保護効果を確認した。このことにより、国の補助事業を活用し、両地区で各1,000m²相当の被覆網の大規模設置へとつながった。

【達成度自己評価】

4 目標(指標)はほぼ達成できた(76~100%)

(様式)

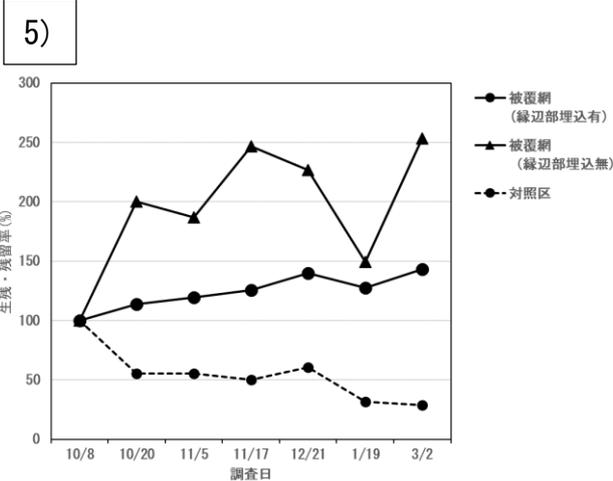
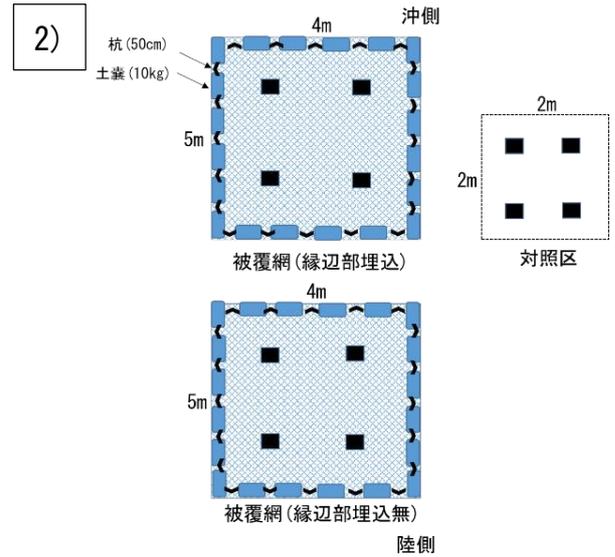


図1 試験漁場図 (荒尾・牛水地区)
 図2 試験状況 (荒尾・牛水地区)
 図3 被覆網設置状況 (荒尾地区)
 図4 被覆網設置状況 (牛水地区)
 図5 被覆網及び対照区の生息密度の推移 (荒尾地区)
 図6 国の事業を活用した被覆網の設置状況 (荒尾地区)